

山口県医師確保計画の効果・評価について

(令和2年度(2020年度)から令和5年度(2023年度)の取組状況等)

1 医師少数区域等への医師の効果的な配置

地域枠医師（医師修学資金貸与者）及び自治医科大学卒業医師について、医師少数区域等に所在する公的医療機関等への派遣調整を行った。

(1) 地域枠医師（医師修学資金貸与者）

医療対策協議会での協議に基づき、勤務先を決定。

(2) 自治医科大学卒業医師

関連市町からの派遣要望に対してのヒアリングを実施し、勤務先を決定。

【医師修学資金貸与者等の配置状況】

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	配置数(過疎)	配置数(過疎)	配置数(過疎)	配置数(過疎)
緊急医師確保対策枠	11 (2)	12 (3)	18 (8)	20 (10)
地域医療再生枠	17 (3)	27 (3)	35 (3)	40 (3)
特定診療科枠・外科枠	17 (1)	16 (3)	13 (2)	10 (0)
県外医学生支援枠	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
旧地域枠	7 (0)	6 (1)	10 (1)	11 (0)
計	52 (6)	62 (10)	77 (14)	83 (13)
自治医科大学卒業医師	13 (7)	11 (6)	11 (8)	11 (8)

2 本県医療を担う医師・医学生の確保

(1) 医師修学資金の貸付

医師修学資金制度により、県内の公的医療機関等で勤務する医師の確保に努めた。

【山口県医師修学資金の概要（令和5年度募集・貸付分）】

区 分・対象者	貸付金額	貸付期間	貸付枠	返還義務免除条件
緊急医師確保対策枠 山口大学医学部推薦入試 「緊急医師確保対策枠」入学者	月 額 20万円	6年	5人	9年間（うち4年間は過疎地域の病院）知事指定医療機関に医師として勤務
地域医療再生枠 山口大学医学部推薦入試 「地域医療再生枠」入学者	月 額 15万円	6年	10人	9年間、知事指定医療機関に医師として勤務
重点医師確保対策枠 山口大学医学部推薦入試 「重点医師確保対策枠」入学者	月 額 15万円	6年	2人	9年間、知事指定医療機関に特定診療科等（小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、放射線治療科、病理診断科、呼吸器内科、外科）医師として勤務
特定診療科枠・外科枠 県内出身の医学生 （1～6年生）	月 額 15万円	6年以内	8人	貸付期間の1.5倍の期間、知事指定医療機関に特定診療科等（小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、放射線治療科、病理診断科、呼吸器内科、外科、総合診療科）医師として勤務

【貸与者の状況】

(R5.8 現在)

区分	総数	特定診療科枠・外科枠									県外	旧地域	緊急	地域再生	重点
		小	産	麻	救	放	病	呼	総	外					
貸与者	279	21	11	11	4	2	0	0	1	13	5	13	69	127	2
勤務医	138	16	9	9	1	1	0	0	0	12	3	13	26	48	0
臨床研修医他	43	2	2	2	2	0	0	0	0	1	1	0	13	20	0
学生他	98	3	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	30	59	2

(2) 山口大学医学部における地域枠の設置・増員の状況

令和2年度(2020年度)入学者から、大学が独自に設定している「地域枠(県医師修学資金貸与と連動しない医学部推薦入試)」が増員(15人→22人)された。

なお、令和5年度(2023年度)は医学部の臨時的な定員増に対応した「重点医師確保対策枠」を新設したところであり、令和6年度の医学部臨時定員については令和5年度末を期限とする医学部入学定員の臨時増員の枠組みを1年間延長することとされている。

【山口大学医学部入学定員の推移】

(単位 人)

年 度		H18 (2006)	H19 (2007)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H28 (2016)	R2 (2020)	R5 (2023)
定 員 (A+B+C)		95	95	105	114	117	117	117	119
内 訳	A 一般入試	75	65	70	66	67	70	65	65
	うち後期日程：地域枠(県内出身者に限る)							3	3
	B 推薦入試	10	20	25	38	40	37	42	44
	全国枠	10	10	10	10	10	7	5	5
	地域枠(県内出身者に限る)		10	10	15	15	15	22	22
	緊急医師確保対策枠(※)			5	5	5	5	5	5
	地域医療再生枠(※)				8	10	10	10	10
C 学士編入	10	10	10	10	10	10	10	10	
うち地域枠(県内出身者に限る)	3	3	3	3	3	3	3	3	

※H30(2018)年度以降は、県内出身者に限る

(3) 県内定着を促進するキャリア形成支援

県と山口大学が連携して設置する「地域医療支援センター」において、各種セミナーや勉強会、随時相談対応による在学中から卒後まで一貫したキャリア形成を支援。

(4) 自治医科大学卒業医師の養成・確保

自治医科大学で計画的に医師を養成し、へき地医療を担う医師の確保に努めた。

【自治医科大学医学部医学科の入学者】

年 度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
本県入学者	2	3	2	3

(5) 地域医療に対する理解の促進

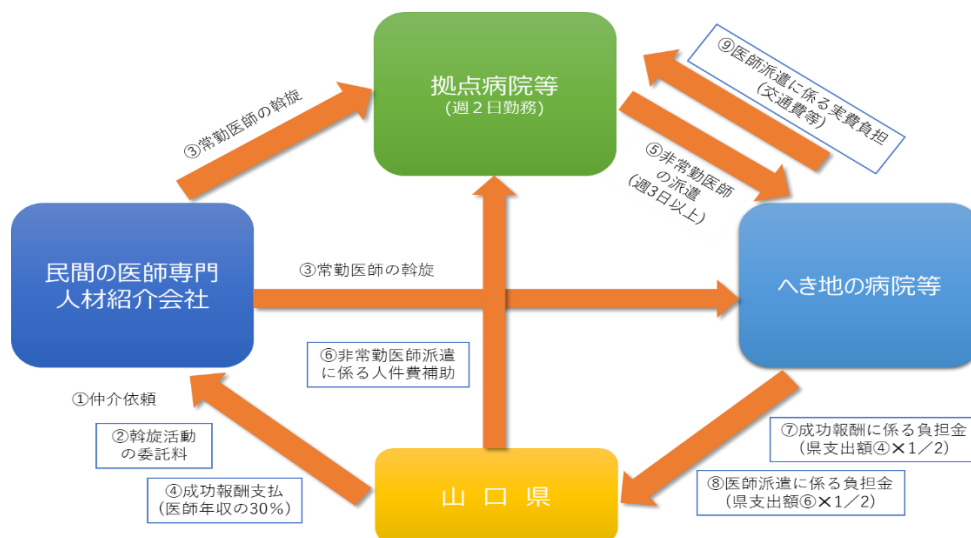
県、関係市町、県立総合医療センター、山口大学、山口県立大学、山陽小野田市立山口東京理科大学等が連携して「地域医療セミナー」を開催した。

【地域医療セミナーの実施】

年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
開催方法	オンライン	オンライン	9 市町	10 市町
参加者数	42	82	75	82

(6) 地域医療を支える医師確保の促進

医師専門人材紹介会社を活用して、へき地医療拠点病院などに医師を新たに確保し、医師が不足しているへき地等にある医療機関に派遣する仕組みを構築することで、令和3年度、令和4年度において、それぞれ1名医師を確保した。



(7) 地域医療を支える意識の醸成

医学部を志望する県内高校生が、医療現場や地域医療の担い手に触れる機会となる「地域医療セミナー」をオンラインで開催。

【地域医療セミナー（高校生セミナー）の実施】

年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
開催回数	3	3	3	今後開催
参加者数	43	47	25	—

(8) 高齢医師の活躍の促進

ドクターバンクやまぐち（医師無料職業紹介事業）を活用し、地域医療で活躍できるよう、取り組んでおり、令和3年度に1名医師を確保。

3 臨床研修医の確保

(1) 研修推進体制の整備

県や県医師会、山口大学医学部附属病院をはじめとする県内の臨床研修病院が一体となって「山口県医師臨床研修推進センター」を設置し、臨床研修医の確保及び研修体制の整備に取り組んだ。

(2) 臨床研修病院における研修実施体制の充実

研修を受ける指導医への助成等に取り組んできた。

(3) 臨床研修医の確保

県内での合同説明会開催や、県外で開催されるフェアへの出展を通じ、臨床研修医の確保に努めてきた。

【マッチングの推移】

年度	R2 (2020)	R3(2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
定員(人)	133	131	129	129
マッチ数(人)	86	98	97	
マッチ率(%)	64.7	74.8	75.2	
採用者(人) (翌年度)	95	99	100	

4 専門医の養成

(1) 専門研修推進体制の整備・充実

県や県医師会、市町、専門研修プログラム基幹施設等で構成する「山口県医療対策協議会専門医制度部会」を設置し、臨床研修後、引き続き県内で専門医を目指す専攻医の確保に努めてきた。

(2) 総合診療医の養成・確保

へき地医療において重要な役割が期待できる「総合診療専門医」の養成のため、総合診療研修プログラムに対する支援を行うことで、主にへき地で活躍が期待される総合診療医の養成・定着に取り組んだ。

【県内の専門研修プログラムへの登録状況】

研修開始年度	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理科	臨床検査科	救急科	形成外科	リハビリ科	総合診療	登録数合計
H30 (2018)	14	4	3	0	4	5	2	3	1	2	0	0	4	0	0	1	0	0	2	45
R1 (2019)	21	2	1	2	4	3	4	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	5	46
R2 (2020)	19	3	5	4	8	3	2	2	0	2	1	3	3	0	0	2	0	0	2	59
R3 (2021)	19	2	3	3	3	6	4	1	3	5	0	1	8	1	0	0	0	0	2	61
R4 (2022)	11	2	2	1	5	4	3	4	1	6	4	2	2	2	0	0	0	0	6	55
R5 (2023)	10	4	5	1	5	7	4	1	4	1	3	4	2	0	0	2	0	1	4	58
合計	94	17	19	11	29	28	19	12	9	17	8	10	21	3	0	5	0	1	21	324

5 新たな情報通信技術の活用

(1) 5Gを活用した医療提供体制の充実

令和4年度まで、県立総合医療センターと岩国市立美和病院を5Gでつなぎ、オンラインによる専門医の助言に基づいた診療の実証を行い、専門医のいないへき地の医療機関に勤務する若手医師の診療をサポートする体制づくりに取り組んだ。

(2) 場所を問わず遠隔医療が提供可能なデジタル技術の活用

令和4年度、離島で医師派遣巡回診療している医療機関において、既存の通信網でも利用可能な高画質モバイル中継装置を用いた遠隔医療の実証を行った。

令和5年度は、上記(1)(2)の実証を踏まえ、離島等へき地を有する市町等に対し、巡回診療等で活用可能な高画質モバイル中継装置等の整備支援に取り組んでいる。

6 医業承継の支援

地域医療提供体制の確保のため、医業譲渡を希望する診療所と医業譲受を希望する医師のマッチング等を支援する体制づくりに取り組んだ。

7 勤務環境の整備

(1) 勤務医の勤務環境の改善

産科医等の処遇改善や、仕事と家庭の両立ができる勤務環境の整備に取り組む医療機関への助成を行った。

また、県が設置している「医療勤務環境改善支援センター」によるアドバイザー派遣等により、医療機関における勤務環境改善の仕組みづくりを支援した。

(2) 女性医師のキャリア形成支援

山口大学と連携し、出産等により一時的に離職した女性医師の復職を促進するとともに、女性医師のライフサイクルに応じたキャリア形成等の支援に取り組んだ。

【相談件数・復職件数の状況（令和5年4月時点）】

年 度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
延べ相談実績	60	77	77	—
復職実績	8	7	7	—

また、女性医師の離職防止を図るために保育相談員を設置し、県医師会が運営する「保育サポーターバンク」との連携による育児支援を行い、勤務との両立に向けた支援を行った。

【相談対応件数（令和5年4月時点）】

年 度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
相談対応実績	11	15	6	—

8 情報発信等

(1) 情報発信

様々な情報媒体を活用し、情報発信を行った。

- ・山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」の運営
登録者に対しメールマガジンの配信（年6回程度・隔月）
- ・医学生向けポータルサイトへの臨床研修病院PR広告の掲載
- ・情報誌の発行等
臨床研修・専門研修ガイドブックの作成・配布

(2) 県外医師の県内就業の促進

県外医師等を県職員として採用し、医師の確保が困難なへき地の公的医療機関に派遣する「ドクタープール」制度を活用し、へき地で勤務する医師の確保に取り組んでおり、令和4年度に1名医師を確保した。

また、ドクターバンクやまぐち（医師無料職業紹介事業）、地域医療を支える医師確保推進事業でも県外医師の県内就業実績につながった。

【各種制度による県外医師の県内就業状況】

年度	R2 (2020)	R3(2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
地域医療を支える 医師確保推進事業	—	1	1	—
ドクターバンク やまぐち	—	1		—
ドクタープール	—	—	1	—
計	—	2	2	—

9 産科・小児科の医師確保に向けた施策等

医師修学資金制度の特定診療科枠に産婦人科・小児科を指定し、修学資金の貸与や県地域医療支援センターにおけるキャリア形成支援等の取組等を通じ、周産期医療、小児医療を担う医師の養成・確保に努めた。

産科医・小児科医の処遇を改善するため、分娩手当や産科専攻医への手当、新生児医療担当医への手当を支給する医療機関への補助を実施した。

【勤務開始した医師数（令和5年4月時点）】

（単位 人）

区分	緊急医師確保対策枠	地域医療再生枠	特定診療科枠	旧地域枠	計
産婦人科	0	3	9	2	14
小児科	4	3	16	0	23

資料：県医療政策課調査